

今春からツアー本格参戦 17年卒 亀代順哉



◆亀代順哉(かめしろ・じゅんや)1995(平7)年2月7日生まれ、徳島県那賀町出身の26歳。10歳でゴルフを始め、香川西から大院大。4年時の2016(平28)年に日本アマを制し、同年にプロに転向。得意クラブは1Wで最長記録は329・5Y。1st67、85m。

大院大出身プロとしてツアー初優勝を狙う亀代順哉

プロ多数輩出の名門・大阪学院大学ゴルフ部出身



表情豊かにプレーする

通算3度の日本一に輝くなど全国でも強豪として知られる大阪学院大学(大院大)ゴルフ部。そのOBで今春からプロツアーに本格参戦するのが、2017年卒業の亀代順哉(26)だ。昨冬の男子Q1ファイナルで3位に入り、今年の出場権を獲得。卒業後はアジアツアーに参戦するなど世界を舞台に修行に励んできた若武者は「大院大OBで初のツアー優勝」の目標を胸に、最高峰の戦いに挑む。(取材協力 宝塚ゴルフ倶楽部)

アジア参戦で武者修行!

武者修 行の成果をようやく発揮する時が来た。同部OBの亀代が今春からツアー本格参戦。すでに先輩の木下稜介(29)ハートランド)や大堀裕次郎(29)フリー)らがプロの舞台で活躍しているが「大院大ゴルフ部出身でプロツアー優勝者がまだいない。出るからには一番は譲れない」とOB最速Vを目標に掲げた。



豪快なドライバーショットが持ち味

昨冬のプロテストに4年生の砂川公佑、富本虎希、鈴木慶太が見事合格。プロの世界へ足を踏み入れた。

「ほっと一安心したと同時にここからがスタートだなと感じた」(砂川)

「しっかりと自分の課題と向き合った結果、一発合格できてよかった」(富本)

「最後まで調子を崩さずプレーしてきた。スタートラインに立ててうれしい」(鈴木) 砂川と富本は3年時の19年に全国大学ゴルフ対抗戦で創部初の優勝を経験。一方、鈴木は団体メンバーとして、全国の舞台を踏めずに4年間を終えた。昨年は新型コロナの影響で全国大会を含むほとんどの大会が中止となったが、昨

秋に行われた関西1部校学校対抗戦では節目の20連覇を達成。自らの門出に花を添えた。 今後はQTでの上位入賞、そしてツアー挑戦権獲得を目指し、下部ツアーを中心に実戦経験を積んでいく。砂川が「最年少で永久シードを獲得したい」と話せば、富本は「大院大OB初の賞金王になる」と断言。鈴木は「ツアーで活躍するだけでなく、一社会人としての自覚を持った行動をしていきたい」と抱負を語った。

「世界」のトップ選手たちと回る機会もあった。技術面でも精神面でも成長できた。 昨冬は同部からOBを含む7人がプロテストに合格。毎年のようにプロを輩出し続ける躍進の要因を亀代は「向上心の強い選手と常に行動を共にすることでお互いを刺激し合える」と分析する。在籍した頃はチームメイトの存在に刺激を受けたといい「結果を残しても仲間がいるから満足していらなかった。ハングリ―精神が養われたからこそ、アジアツアーにも挑戦できた」と振り返る。 19年に日本に主戦場を戻し3年目。今年の国内男子開幕戦となる4月の東建ホームメイト・カップが亀代にとっても初戦となる。「今季はレギュラー、下部それぞれで1勝を挙げたい」と描いた青写真。自身の優勝を皮切りに男子ゴルフ界に「大院大旋風」を巻き起してみせる。

◆大院大出身のゴルフ部OBプロ

氏名	学年
木下稜介	14
大堀裕次郎	14
田谷川志波	14
伊藤原豊	14
小島徳永	14
中村岡石	14
城田公虎	14
寺川希太	14
川本虎希	14
富本虎希	14
砂川公佑	14
鈴木慶太	14
亀代順哉	17

夢はOB初のツアーV

◆大阪学院大学ゴルフ部 1967(昭42)年に創部し、関西学生ゴルフ連盟所属。2015(平27)年に信天杯争奪日本大学ゴルフ対抗戦で初優勝し、翌年も連覇。19年に全国大学対抗戦で初優勝。20(令2)年秋には関西1部校対抗戦で20連覇を達成。



富本

鈴木

砂川